

キャラクター名  
クロエ・L・シュナイダー

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン オルクス	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	PMSC
オプション		年齢	33	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	恐怖	初期侵食率	164 %
出自	安定した家庭	経験	喪失	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	4	0	0			4	戦闘移動	11
社会	3	0	0			3	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:	FH	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
大型拳銃	射撃	1r-2		5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
応急手当キット	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
父	P 尊敬	N 侮蔑		
仲間	P 連帯感	N 不安		
触媒	P	N		
:*ヴァイバーナム阿蘇野七生あその なな	P 好意	N 不安		
ガランサス	P	N		
キド	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
戦術	5	6	セットアップ	視界	シーン選択	自動		
効果: 自身以外の対象のメジャーアクションDを+LV個。								
アドヴァイス	1	4	メジャー	視界	単体	自動		
効果: メジャーのC値を-1。判定ダイスを+LV個。								
領域の加護	1	2	メジャー	視界	単体	自動		
効果: 対象の次のメジャーアクションの攻撃力+{Lv*2}								
要の陣形	2	3	メジャー		三体	シンドローム		
効果: 組み合わせたエフェクトの対象を3体にする。								
妖精の手	2	4	オート	視界	単体	自動		
効果: 対象の判定ダイスの目一つを10にする。								
支配の領域	2	6	オート	視界	単体	自動		
効果: 対象の判定ダイスの目一つを1にする。								
力の法則	3	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 対象のダメージロール直前に使用。ダメージを+{Lv+1} Dする。								
プロファイリング	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

冷血漢に見えるが心根は熱い。とあるPMSCを率いている。

幼いころは女にしては珍しく父が教えてくれるチェスが好きな少女だった。ミドルスクールの頃には地方大会で入賞するほどの腕をもっていた。住んでいたのは人の多い地域からはずれた物寂しい山間。自然豊かなその家で、両親と祖父母とともに住んでいた。ミドルスクールから帰ってくると祖父母や母はずでに殺されており、父は血走った目をして見知らぬ人間に引き金を引いていた。落ちていたころには父は忽然と姿を消しており、自分には血だらけの家とある程度の財産、そして時折送られてくる父からの仕送りだけが残らなかった。居なくなった父のあとを追い、知識や経験をつけながら父の痕跡をたどる。調べればとある民間軍事企業に所属しているそうだった。幸い父から教わった知識、チェスの事だと思っていたが戦術としても使えるらしい。父に会うために、あの時の事を聞くために。そのために使えるものは何でもつかって若くして地位を上げていった。その折に、遂に父に出会った。見知らぬ人間は父の知り合いだったらしい。早期引退をした父を呼び戻してきた彼の顔を見るときに軍人時代の凄惨なフラッシュバックが起こり、気付けばあであったそう。そんなことの為に優しくも厳しい母や温かい祖父母は死んだのかと思うと壮絶な怒りが沸いた。その怒りの心とともに不思議な、冷静なココロが自分の中に芽生えるのがわかった。父をみた。健康的だった過去の記憶は脳裏にこびりついている。だが今の彼はどうか、頬はコケ、眼高は落ちくぼみ。その瞳には現実を映していない。その時に理解した、父は死んだのだ。あの時、あの場所で。体は無事でも、心は死んだのだ。守りたかったものをその手にかけ、一瞬の激情ですべてを無に帰した。